

文学部FDレター no. 7

作成文学部FD委員会 2017年3月

文学部では、ご担当の先生方による授業改善を目的に年2回の授業アンケートを実施し、その結果をお知らせしております。学生自由記述欄に書かれたことについては、授業改善のための情報共有という観点から、FD委員会では整理をし、ニュース・レターにて公表してまいりました。また、前回からはFD活動自体の改善を目指し、先生方からご提出いただいた「授業改善のために」についてもご紹介することにいたしました。

I. 授業アンケートの学生自由記述欄

今回も従来と同様に2016年度前期の自由記述欄をFD委員が閲覧いたしました。そこに書かれた学生の意見を、以下、一部要約も交えながら「講義」、「外国語」、「演習」の順にご紹介いたします。

1. 講義

(1) 良かった点

- ・教員が受講者ひとりひとりと多くのコミュニケーションをとりながら授業を進めていたのがよかった。
- ・気軽に質問しやすかった。
- ・担当教員の人柄の良さ（やさしい、おもしろい、気さく、明るい、など）。
- ・学生の様子を見ながら話していた点。
- ・気軽に質問に行ける雰囲気があった。
- ・わかりやすく伝えようとしてくれていた点。
- ・映像・動画等の使用が効果的。
- ・リアクションペーパーに対する応答によって、前回の授業の復習ができ、その日の授業にスムーズに入ることができる。
- ・プリントが復習の際に役に立った。
- ・書き込み式のレジュメが効果的だった。
- ・毎回、問い（クイズ）があることで授業に集中しやすかったし、楽しみながら学習できた。
- ・留学生とのペアワークがよかった。
- ・ラーニングコモンズでの授業がよかった。
- ・レジュメを見返すと正確に授業内容が思い出せた。
- ・授業の最初に新聞を読むのが楽しかった。
- ・心理学というカテゴリーでくくって、心理学に興味のある人しか受講しないのはもったいないなと感じるほど、現在の社会的事象、問題などを扱っていた点。
- ・ディスカッションの時間が取り入れられていて、受け身の授業ではなく自分で考えることができたのがうれしかった。
- ・考えたことがなかったことに、目を開かれた。

- ・政治への関心がうまれた。
- ・難しい内容だったが、だれもが考えていかなければならない問題だったので、この授業を通して自分の考えを深めることができてよかった。
- ・研究の方法を知ることができた。
- ・高校の授業では扱わなかった内容を深く学べた点。
- ・さまざまな学説を知ることができた点。
- ・普段読めない本を読めたこと。
- ・普段ふれることのない競技（ゴルフ）を経験できたのが良かった。
- ・様々な競技をとおして運動の基礎が学べた。
- ・運動を通して他学科の学生との交流もはかれた。

(2) 改善して欲しい点

- ・このアンケートは本来、学生が記入するときに教員は退室することになっているので、そのことを確認してほしい。
- ・出欠の管理や授業態度不良者（私語、携帯使用者、内職をして聞いている者）への注意をもっと厳しくしてほしい。
- ・授業の開始・終了時間を守ってほしい。
- ・板書の文字が時計の陰になり、見えづらいことがあるので、板書の位置に配慮するか、時計の位置を変えてほしい。
- ・悪い例として個人名を出さないでほしい。
- ・冷房の風の当たる席だと集中しづらいので、席を自由に移動できるようにしてほしい。
- ・重要なポイントがどこにあるのかわからなかった。
- ・内容がシラバスと異なる。
- ・シラバスの情報が少なく、板書もキチンとされていないので、テスト勉強ができない。
- ・最後の方で授業のペースがあがったので、時間配分を考えてほしい。
- ・板書が不適切（そもそもない、読みづらい、整理されていない、多すぎる、消すのが早い、など）。
- ・プリント（文字）だけでなく、絵や映像などを使って、もっとイメージしやすくしてほしい。
- ・スライド等を使う場合、画面の切り替え速度をもう少しゆっくりにしてほしい。
- ・プリントがよみづらい。
- ・プリントに日付やページがほしい。
- ・レポートをたくさん出させるが、リアクションが少ない。
- ・小テストの返却に時間がかかりすぎる。
- ・参考資料を挙げる際は、藤の図書館にあるものとなないものを分けて提示してもらえるとありがたい。

(3) 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・教室の大きさが受講者の人数と釣り合っていない。
- ・教室の温度調整が不適切。
- ・マイクが授業の途中でよく切れるので対応してほしい。

- ・教室の椅子が硬くて座りづらい。

2. 外国語

(1) 良かった点

- ・受講生に対して平等に発言の機会が与えられたこと。
- ・先生の英語が聞き取りやすくてよかったです。黒板に指示を書いてくれるのもよかったです。
- ・大事なところ、分かりにくいところを何度も説明してくれた。一人ひとりに文を読んだり、発音する機会を与えてくれた点。
- ・板書が丁寧であった。あとから見返しても分かりやすいものであった。
- ・ひとりひとりと面談をしながらアドバイスをしてくれた。
- ・エッセイにひとりひとり細かくコメント、アドバイスが書かれていてよかった。
- ・文法の説明をした後にすぐ練習問題を解いていたので、どう使うかすぐに理解できた。字がきれいで見やすかった。
- ・発音、ゲームなどの授業内容が楽しかった。
- ・わかりやすい説明や、自分だけの考えだけでなく周りとの相談しながら進めていくやり方が非常によく、英語に対する見方や姿勢が変わった。また英語を頑張ろうと思うようになった。
- ・グループワークが多く、いろいろな人と交流が持てたこと。
- ・小テストと中間テストがあったため、勉強を習慣づけることができた。
- ・台湾の学生と英語でチャットするという貴重な機会が与えられ、コミュニケーション力の向上につながった。
- ・英語ネイティブスピーカーの先生が日本文化に精通しており、それを交えて授業を展開してくれた。
- ・All English で英語を聞き取る力がついたこと。英語が身近に感じられるようになった。
- ・英語のプレゼンの仕方がよくわかった。問題を解くので力になる授業だった。
- ・英国小説がこんなにも面白いということが知れてよかった。もっと色々なものを読みたいというきっかけになった。文法の説明が非常にわかりやすかった。
- ・発音のコツやリスニングのポイントを知れて、前より英語を聞けるようになった。正しい発音の仕方がわかったこと。
- ・ドイツ語を回を追うたびに理解できている実感が持てました。
- ・言語以外の文化などのことも教えてくださいました。
- ・エッセイを書くことを通じて自分の考えを深めることができた。
- ・短い本だが、一冊の本を通読でき、読む訓練ができた。

(2) 改善してほしい点

- ・人数が多い授業だったので、もう少し調整した方が良かった。
- ・週2時間で先生と教科書が変わるのは、効率的でないので、改善して欲しい。毎週小テストは少し負担が重い。
- ・補講時間に他教科の試験が重なり、公欠にならないのは問題である。
- ・アンケートを学生番号順の席で席順に回収するのでは、個人の特定ができることから不適切だ。

- ・クラスのメンバーのレベルにかなりの差があった。
- ・(45分授業の) 授業時間が短すぎる。英語を学んでいく上で必修の授業なのに45分なのはどうかと思う。その影響で教員が急いで授業を進め、説明が不十分な点が見受けられた。
- ・All Englishの授業でリスニング能力や話す力はついたものの、テストや課題に関する重要なことは日本語で伝えて欲しいと思った。
- ・出された課題の答え合わせは、すべてやってほしい。
- ・テキストの練習問題の解答がほしい。
- ・声が小さく、聞きにくかった。声が小さいのにマイクを使ってくれなかった。
- ・板書の文字を崩されると解答が読めないことがあり、プリントなどを利用してもらいたい。
- ・一回の授業の内容をもう少し凝縮できると感じた。進度が速い時と遅い時があるのには、少し困った。
- ・英語の授業なのに、周りの学生が日本語で話していた。
- ・オーラルコミュニケーションの授業であるから、会話中心だと思っていたが、教科書を中心に授業が展開された。
- ・単位数に対して宿題の量が多すぎる。
- ・テスト範囲が長すぎる。
- ・TOEFLに出る文法など、もっとごりごりやってほしい。
- ・難しすぎて、放棄する学生も多かった。
- ・初級と中級のレベル差が大きく、リスニングについていけなかった。
- ・たまには、席替えしたい。
- ・テストのアナウンスがない中でテストを行った。
- ・板書をわかりやすくしてほしい。大切な情報をわかるように提示してほしい。
- ・会話力だけでなく、筆記式のテストの導入も考えてもらいたい。
- ・出席は毎回とってほしい。
- ・名前を間違っってよばれること。
- ・もう少し大きな声で話しか、マイクを使用してほしい。
- ・スクリーンを利用するときには、黒板灯を消してほしい。
- ・先生の態度が威圧的で気軽に話すことができない。
- ・提出したものが返ってこないことが多々あった。
- ・英語ネイティブスピーカーの教員が日本語を話しすぎる。

(3) 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・角の席からは、黒板が全く見えない。板書が大変だった。
- ・クーラーが効きすぎ、体が冷たくなる。教室の温度管理が極端である。
- ・授業スタイルと教室の設定があっていない。板書を写すにも苦労した。
- ・PCの動作が重い。インターネットが繋がりにくい。

3. 演習

(1) 良かった点

- ・先生が良い。優しい。面白い。見ていないようで一人ひとりの学生をみていた。
- ・事前の相談に十分な時間が取ってもらえた。
- ・板書がていねいで分かりやすかった。
- ・先生が一方的に行う授業ではなく、自分で考えながら学ぶことができた。
- ・途中で休み時間をとるなど、授業にメリハリをつける工夫がなされていた。
- ・少人数なので、発言がしやすかった。
- ・予習が義務づけられていたことが良かった（シラバスにはなかったが）。
- ・少人数なので分からないところを徹底的に教えてもらった。
- ・全員が必ず質問する形式だったので、積極的に参加できた。
- ・美術館に行けたのが良かった。
- ・教材（多くの映画や小説が使われた）が良かった。
- ・文法について、これまで疑問に思っていた点がわかるようになり、体系的に学ぶことができた。
- ・様々な時代・分野・視点、研究史など専門的なことが学べた。
- ・ゼミでの勉強の仕方（発表資料の作成、発表の仕方、レポートの書き方）を学ぶことができた。
- ・英語による授業なのでリスニング力がついた。

（２）改善して欲しい点。

- ・人数が多いと進行しづらい気がした。
- ・試験期間中の補講、土曜日の補講はきつかった。
- ・シラバスに書かれていたことと違いがあった（予習義務の有無）。
- ・もう少しゆっくり進めて欲しかった。
- ・もう少し日本語を使って欲しい。
- ・学生を注意して欲しい（予習をしていない学生、態度の悪い学生）。
- ・別な副読本も欲しかった。
- ・教材が難しかった。

（３）教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・教室の温度調整が不適切。

Ⅱ．授業の改善のために

「授業改善のために」は、これまでアンケート後に任意でご提出いただけてきましたが、今回、2016年度からは授業担当者全員に提出をお願いすることとなりました。全員への提出依頼は初めてということもあり、提出率の方は20パーセント程度に留まりましたが、FD活動全般にわたって貴重なご意見をいただきました。今回ご提出いただきました先生方にお礼を申し上げるとともに、今後の提出についても引き続きご協力をお願い申し上げます。以下では、前回同様、皆さまからいただきましたご意見を、一部ご紹介したいと思います。

0 改善アンケートの結果をどのように分析されますか、より魅力ある授業をするためのお考えをお書き下さい。

- ・資料や器具の適切な使用。
- ・アクティブラーニングや作業を入れるなど学生主体の参画型授業。
- ・板書をする上での工夫。
- ・LMS の活用。
- ・学生の興味と学術的内容のバランス。
- ・学術語アレルギーの解消。
- ・講義中心の授業のため予習や復習ができる仕組みの構築が必要。
- ・大人数の授業での参加意識を高める工夫が必要。
- ・「授業内容はシラバス通りでしたか」の項目が若干評価が低かったので、もっと計画的に行っていきたい。
- ・「資料や器具は効果的でしたか」の項目は全員が 5 をつけた。「ハンドアウトが丁寧だった」というコメントもあった。「余白が少ない」というコメントがあったので次回からは改善したい。
- ・「教員の言葉の聞きやすさは」について、平均前後であったため、改善の必要性が強い項目ということになる。
- ・「授業に積極的に参加しましたか」という設問のスコアがあまり高くなかった点は、インタラクティブな活動をあまり取り入れていなかったからだと考えます。

I 授業改善で成果がみられたご自身の FD 活動について、その内容、期間、効果等について、出来る限り具体的に記述願います。

- ・全員が平等に話す機会が与えられるよう工夫した。学生は平等性を評価しているようである。
- ・講義ではあったができるだけ学生が考えたり、手を動かしたりする時間を作るようにした。
- ・DVD 等の視覚教材を用いることで、授業に対する学生の関心をひくことができた。
- ・質問への個別対応など学生の潜在的な関心をうまく引き出せるよう努力したつもりであるが、一定割合無関心な学生がいることは防げないことも実感した。
- ・出席カードに、質問・感想だけでなく、授業で改善してほしい点があれば記入するよう伝えていきます。授業期間中に対応できることもあるので、今後も継続したいと思っています。
- ・REAS やリアクションペーパーなどによる授業内アンケートの日常的实施。

II 授業改善を実施するうえでの問題点について、お聞かせください。

- ・履修者数が多いこと（出席管理や授業中の管理が難しくなる）。
- ・学力、学習意欲の異なる学生が混在していることへの対処が難しい。
- ・スクリーンが黒板を覆ってしまうのは、授業展開に支障を与える。
- ・wifi 環境の整備や IT 器機のアップデートが必要。
- ・少数の否定的意見がきちんと勉強しないことの言い訳になっていることもあると思うので、そのまま受け入れられないと思うことがある。
- ・学生の側の無理解、意欲のなさ。
- ・積み上げ式の科目を上手に履修できない時間割編成。
- ・白紙の改善アンケートが 1 部手元に残るようにしてほしい（集計結果では、5~1 のどれを選んだのかということしかわからないので）。

III FD 活動全般に関するご意見・ご提言についてお聞かせください。

- ・教員間での FD 活動・成果についての情報の共有が必要。
- ・学生がどれほど本音を書いているか疑問である。
- ・アンケートに対するこちらの応答を踏まえた学生側からの再反論が続くというかたちで、学生とのコミュニケーションが持続するシステムの構築が必要。
- ・対外目線ではなく、学生や職員を含む組織内の価値共有を目指すという FD の方向性。
- ・アンケート項目や「授業改善のために」の設問の仕方の見直し。
- ・個々の FD 活動の共有。
- ・非常勤に対する要望や意見交換ができる FD セミナーがあるとよい。
- ・アクティブラーニング研究会の実施。
- ・授業アンケート集計結果の翻訳。
- ・自分の授業を点検するためのよい機会。
- ・学生の知的関心を育てる一助となるような履修指導の実施。
- ・シラバスを練る時間の確保が必要。
- ・授業改善は個々の教員の研究の進展とともになされるべきもので、テクニックに偏ることは良くない。

III. 今後の FD 活動について

これまで任意で提出していただいていた「授業改善のために」を、今回より全員にご提出をお願いいたしました。ご提出いただいた「授業改善のために」については、委員会全体で目を通しましたが、これまでの FD 活動を振り返るとともに、今後の FD 活動を考えるよい機会となりました。

今後の活動について委員会として確認した点を二点あげておきたいと思います。一つは、FD 活動を、外部から命ぜられた活動というのではなく、教員と学生の双方にとって授業を有意義とするための活動と再認識すること。もう一つは、この活動のために、アンケートに回答している学生たちに対して、きちんとしたフィードバックを行える体制作りを進めることです。

今回、ご提出いただいた「授業改善のために」では、ほとんどの先生が FD 委員会への回答という体裁で書かれておりました。FD 委員会が提出依頼者であり、また「授業改善のために」の質問項目や文面を考えると、そのような回答も当然と言えます。しかし、一方で、上に紹介したように、少数ながら、学生への回答、学生の個々の意見への回答として書かれている先生方もおられました。FD 活動の面からすれば、こちらの方が趣旨に沿った回答方法と言えるかと思います。自由記述欄を見てみると、学生側が誤解に基づくコメントを書いている場合もありますが、教員側の意図を説明する機会や学生と教員とのコミュニケーションがやはり必要と考えられます。また、近年、学生に課されるアンケートが増えつつある傾向の中で、より真面目な回答を求めるのであれば、アンケート後の学生への回答をきちんと行い、アンケート全体の信頼度を高める必要があります。そのためには、「アンケート項目」や「授業改善のための」の文面の見直しなど、FD 委員会としても改善すべき点が多々あることを認識しております。

文学部 FD 委員会は、今後も年 2 回のアンケートを FD 活動の中心に位置づけておりますが、上記のような観点から、FD 活動そのものの改善を進めていきたいと考えております。引き続き、皆さ

まのご協力をお願い申し上げます次第です。